

TU-S707X DECADE

AM/FMステレオチューナー

取扱説明書



※ご使用前に必ずお読みください。



このたびは、サンスイ製品をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり本機の性能を十分に発揮させてご愛用くださいますようお願いいたします。

※説明の便宜上、イラストは原型と異なることがあります。

目次

ご使用になる前に	3
接続	4
各部の名称と説明	6
操作	8
使用上のヒント	10
トラブルと修理依頼	11
規格	12

アフターサービスについて

保証書——この製品には保証書が添付されています。

「お買い上げ店の捺印、購入年月日」などの記入及び記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

所定事項が記入されていない場合や紛失した場合は保証期間中でも保証が無効となります。

保証期間——この製品はお買い上げの日より1年間です。正常な使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合は保証書に記載されている当社修理規定に基づき、修理いたします。

保証期間経過後の修理——当社消費者相談窓口またはお買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

この製品の補修用性能部品*1の最低保有期間は、製造打ち切り後8年*2です。

*1 補修用性能部品とは、この製品の機能を維持するために必要な部品です。

*2 この期間は、通商産業省の指導によるものです。

この取扱説明書は保証書、サービスネットワークと一緒に大切に保存してください。万一ご使用中にわからないことや不具合が生じたときにお役に立ちます。

特長

当社独自のデジタル復調方式SLDDを更にクオリティアップMPX部に搭載したSLDD(スーパーリニアデジタルデコーダー)回路は、従来のデコーダーの欠点である高調波の発生が非常に少ないため、この高調波との相乗作用で発生する隣接局妨害、RF相互変調妨害によるノイズが大巾に改善されます。

また、信号の一部欠損や位相差を生じるアンチパーティーフィルターを必要としないため、歪率やセパレーションが向上し音質の良いFM放送が楽しめます。

充実した回路構成

- 5連バリコン相当のツインバリキャップダイオードを使用した、同調ズレ、歪発生を起こさない新開発のFMフロントエンド部
- 群遅延特性に優れたセラミックフィルターを使用し、高選択度特性と低歪率を両立させたIF部
- アンテナ入力(FM/AM)に採用したバランス受け方式のフローティングサーキットシステムにより、シャーシとの間に発生するコモンモードノイズをシャットアウト

メモリー選局とプリセットスキャン機能

FM放送8局、AM放送8局をメモリーして、プリセットステーションスイッチを押すだけで放送局が呼びだせるメモリー選局が行えます。

また、プリセットスキャンスイッチを押すとメモリーした局を自動的に4秒間つつ聞くことができます。

長期間のメモリーバックアップ

電源を切る前に聞いていた局やメモリー内容が消えないよう、大容量コンデンサーとリチウム電池によりバックアップしています。

FM放送の録音に便利なレックキャリブレーション回路

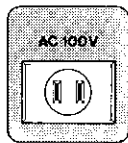
440Hz、-6dB相当のレックキャリブレーション信号によりFM放送を録音するときのレベル調整が簡単に行なえます。

音質の良いAM部

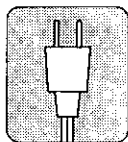
IFバンドスイッチWIDE位置で、プリエンファシスによるAM放送の特性改善に応じた広帯域のAM放送が楽しめます。

ご使用になる前に

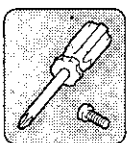
🗺️ ご使用になる前に〔次の事項にご注意ください〕



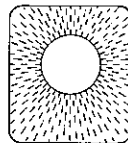
100V交流(AC)電源で……………
この製品は100V専用です。クーラーなどの200V電源には絶対に接続しないでください。
故障や火災の原因になり、危険です。
また、直流(DC)電源ではご使用になれません。



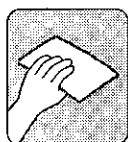
電源コードについて……………
コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。
また、濡れた手で電源プラグの抜き差しを行うと感電する場合がありますので、絶対におやめください。
●長時間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。



ケースや底板をはずさないで……………
内部の点検や調整は、故障や感電事故の原因になります。内部に触れることは絶対にしないでください。
また、内部を改造した場合の性能の劣化については保証いたしません。

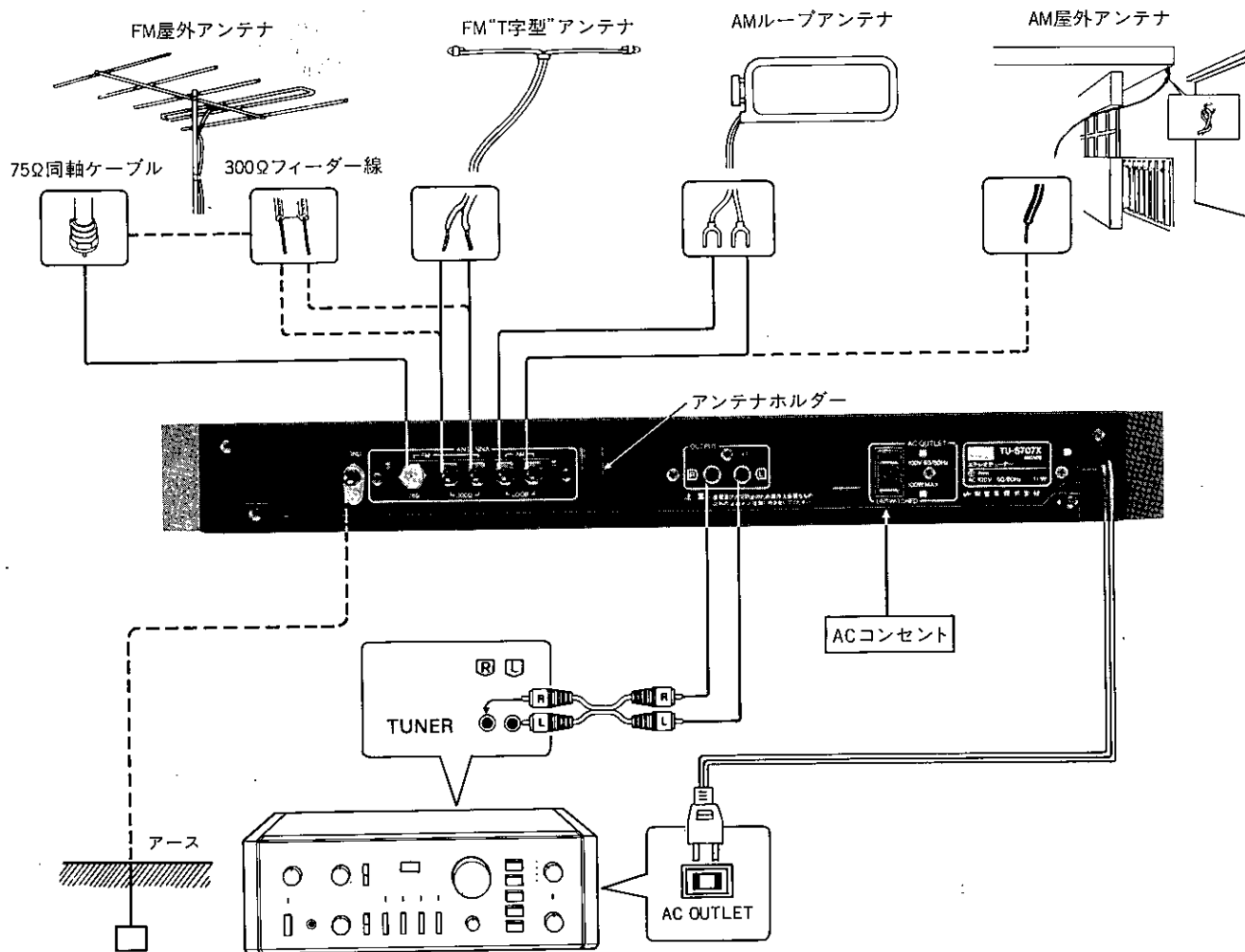


設置上の注意……………
次のような場所には設置しないでください。性能の劣化や故障の原因になります。
●直射日光の当たる場所や暖房器具などの発熱物の近く。
●湿気や水分のある場所。
●風通しが悪く、ホコリの多い場所。
●振動や傾斜のある不安定な場所。
●大出力のアンプや管球式のアンプなどの発熱の大きな音響製品の上。
●テレビや他の受信機の近く。
(同時に使用すると雑音が入ることがあります。)



シンナーなどでふかないで……………
パネルやケースは、ときどきやわらかい布でからぶきしてください。シンナーやアルコールなどの揮発性のものを用いると表面が侵され、外装ムラや文字が消えたりすることがありますから絶対に使わないでください。
また、スプレー式の殺虫剤などもかからないようにご注意ください。

接続



● 接続上の注意

- 接続の際は、電源プラグをコンセントから抜くか、パワースイッチを押して電源を切ってから行ってください。
 - プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は雑音発生の原因になります。
 - 接続したアンテナの引き込み線が他の部分に接触していたり接続が不完全ですと受信不良や雑音発生の原因になります。
 - 背面パネルに備えてあるACコンセントの供給できる電力容量は100Wです。この指定容量以上の消費電力がある電気製品をつなぐと非常に危険です。接続する前に、必ず消費電力を確かめてください。
- また、ACコンセントには交流100Vの電圧がかかっています。ヘアピンなどの金属物を差し込むと感電しますから絶対におやめください。

● ステレオアンプとの接続

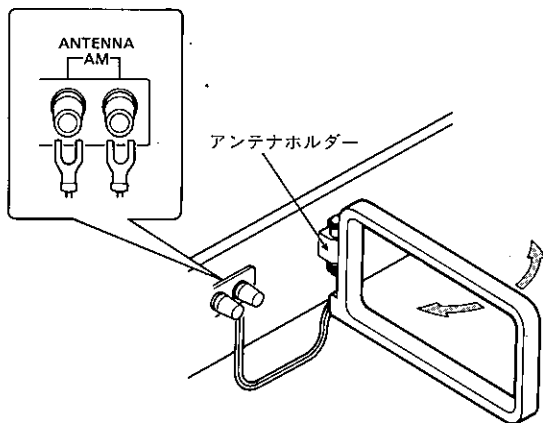
OUTPUT端子とステレオアンプのチューナー(TUNER)端子を付属のピンプラグコードで接続します。左右のチャンネルを確かめて、正しく(LとL, RとR)接続してください。また、電源プラグをアンプのACコンセント(SWITCHED)に差し込んでおくとう便利です。

● 電源コードの極性表示について

電源コードの白線側をコンセントのホット側(接地されていない方)に接続すると、ノイズ、ハムが低減し音質が良くなる場合があります。

AM用ループアンテナの接続

付属のAM用ループアンテナのコードをループアンテナ(AM LOOP)端子に接続して本機背面のアンテナホルダーに取り付けます。

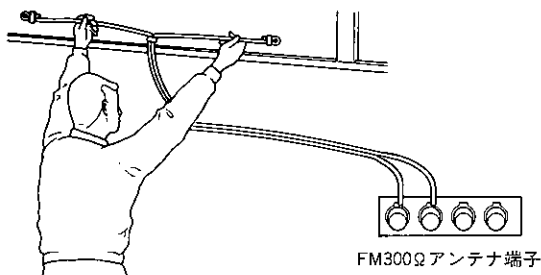


- ループアンテナを取りはずすとAM放送が受信できなくなります。AM屋外アンテナを設置した場合でもこのループアンテナは必ず付けておいてください。
- ループアンテナに電源コードやスピーカーコードを近づけないでください。雑音の原因になります。

FM用T字型アンテナの接続

付属のT字型アンテナはFM300Ωアンテナ端子に接続し、両端をT字型にひろげて放送をききながら受信が最良になるようにアンテナの方向をきめ、天井や壁に両端を固定してください。水平に張った位置が低い場合は人が通るたびに受信が不安定になる場合があります。

- T字型アンテナはFM屋外アンテナを設置するまでの期間、暫定的にFM放送を受信していただくためのものです。雑音の少ない、より音質の良いFM放送を受信するためにはFM専用の屋外アンテナを設けてください。

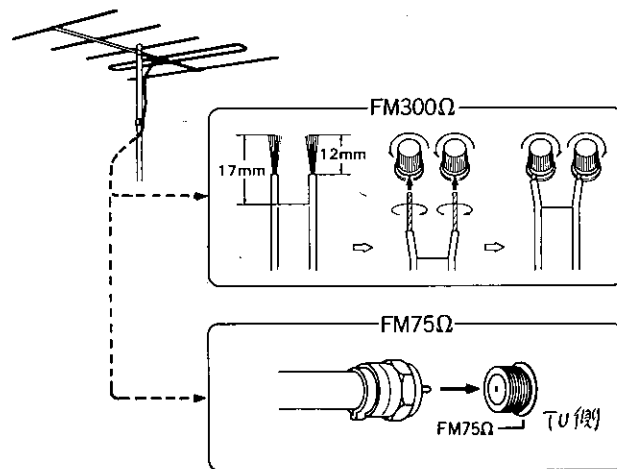


FM屋外アンテナの接続

FM屋外アンテナとチューナーを接続する引き込み線には75Ω同軸ケーブルと300Ωフィーダー線があります。

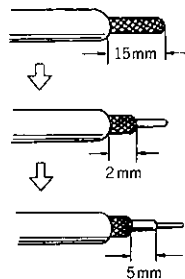
300Ωフィーダー線を使った接続：フィーダー線の先端を図のように処理してFM300Ωアンテナ端子に接続します。

75Ω同軸ケーブルを使った接続：同軸ケーブルの先端を図のように処理してF型接栓を取り付け、FM75Ωアンテナ端子に接続します。

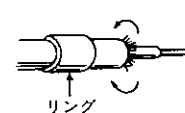


F型接栓の取り付け

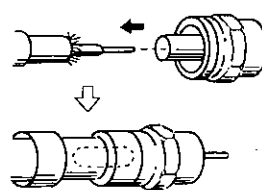
①同軸ケーブルの先端を加工します。



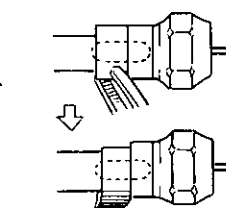
②リングを通し、網線を外側に折り返す。



③F型接栓を差し込みます。

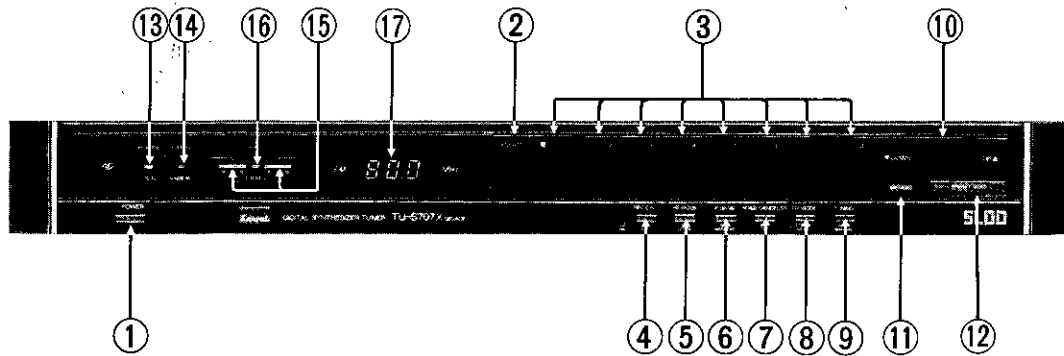


④リングをペンチでつぶします。



- FM屋外アンテナを接続したときは、T字型アンテナを取りはずしてください。
- 引き込み線は電源コードや電灯線から離し、短かく配線して余った部分は束ねずに切断してください。
- 付属のF型接栓は3C-2Vの同軸ケーブル用です。5C-2Vにはご使用になれません。
- 外側の網線と内側の芯線がショートしないようにご注意ください。
- 接続の際、芯線が曲がらないようご注意ください。

各部の名称と説明



① パワースイッチ (POWER)

このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

② FM/AM切替スイッチ (FM/AM)

おききになる放送 (FM, AM) を選びます。このスイッチを押すたびに“FM”と“AM”に切り換わり周波数表示窓に“FM”または“AM”と表示されます。

③ プリセットステーションスイッチ

1つのスイッチにFM放送、AM放送を各1局ずつ記憶させておくことができます。(FM, AMの切り換えはFM/AM切替スイッチで行います。)

あらかじめ希望する放送局を記憶させておくと、そのスイッチを押すだけで放送を受信することができます。

④ レックキャリブレーションスイッチ (REC CAL)

このスイッチを押して“ON(■)”にするとキャリブレーション回路が働いて440Hz、-6dBの信号が出力にです。

FM放送を録音するときに録音レベルの調整にご利用ください。もう一度押すと“OFF(□)”になり、受信した放送が出力にです。

⑤ RFモードスイッチ (RF MODE)

FM放送の受信感度を切り換えるスイッチです。

FM放送局が近くにあり電波が強いと受信した音がひずむことがあります。その場合、このスイッチを押して“LOCAL(■)”にすると受信感度が下がり、良好な受信を行なうことができます。通常の受信時は“DX(□)”にしてお聞きください。

●このスイッチはAM受信時には動きません。

⑥ IFバンドスイッチ (IF BAND)

FMまたはAM放送受信時の中間周波数の通過帯域をWIDE(広帯域)とNARROW(狭帯域)に切り換えます。

受信した放送が隣接した放送などにより混信妨害を受けるときは、このスイッチを押して“NARROW(■)”にします。

通常は“WIDE(□)”でご使用ください。受信電波を広帯域で通過させるため音質の良い放送が受信できます。

⑦ ノイズキャンセラースイッチ (NOISE CANCELER)

FMステレオ放送を受信中に高域の雑音が気になる場合にこのスイッチを押して“ON(■)”にすると高域の雑音が減少します。

このとき、ステレオの左右分離度が少し悪くなります。高域の雑音が気にならないときは、もう一度押して“OFF(□)”にしてください。

●AM放送やFMモノラル放送の場合は、動きません。

⑧ FMモードスイッチ (FM MODE)

このスイッチは、FMミューティング回路のON-OFF切り換えとFM受信モードのSTEREO-MONO切り換えの2つの働きを兼ねています。

通常は“STEREO(□)”の位置でご使用ください。ミューティング回路が働いてFM特有の「ザー」という局間雑音がカットされ、快適な選局ができます。また、FMステレオ放送はステレオで、FMモノラル放送はモノラルで聞くことができます。

電波の弱い放送局を聞く場合、ミューティング回路により雑音と共にカットされて受信できないことがあります。そのときはこのスイッチを押して“MONO(■)”にしてモノラル動作でお聞きください。

⑨ チューニングモードスイッチ (TUNING)

FM放送やAM放送を受信するときの選局モードを選択するためのスイッチです。

オート選局を行なう場合は“**AUTO** (□)”に、マニュアル選局を行なうときは“**MANUAL** (■)”にセットしてください。

⑩ チューニングスイッチ

希望する放送局を選局するスイッチです。チューニングモードスイッチを切り換えることによりオート選局とマニュアル選局の2通りの選局が行えます。

オート選局の場合

UPまたはDOWNスイッチを押すとオート選局が始まり、放送を受信すると自動的に止まります。

UPスイッチを押すと受信周波数が高くなり、DOWNスイッチを押すと低くなります。

マニュアル選局の場合

UPスイッチを1回押すごとに受信周波数がFMでは0.1MHz、AMでは9kHzづつ高くなり、スイッチを押し続けると受信周波数が高くなり続け、指を離すと止まります。

DOWNスイッチを1回押すごとに受信周波数がFMでは0.1MHz、AMでは9kHzづつ低くなり、スイッチを押し続けると受信周波数が低くなり続け、指を離すと止まります。

- オート選局は放送を受信するまで止まりません。途中で止めるときは、チューニングモードスイッチを押してください。
- マニュアル選局でチューニングスイッチを押し続けた場合、受信周波数の上限または下限に達すると選局動作は止まります。

⑪ メモリースイッチ (MEMORY)

プリセットしたい放送局を受信し、このスイッチを押しながらAM/FMプリセットステーションスイッチを押すと、そのスイッチに放送局が記憶されます。このスイッチを押している間、受信周波数表示窓の右上に“MEMORY”の表示が出ます。

⑫ プリセットスキャンスイッチ (PRESET SCAN)

プリセットステーションスイッチの(1)~(8)にプリセットした放送を連続して自動的に聞くことができます。

このスイッチを押すとプリセットステーションスイッチが4秒間隔で(1)→(2)→(3)→(8)→(1)→(2)と自動的に切り換わり、それぞれのスイッチにプリセットした放送を聞くことができます。

お聞きになりたい放送が受信されたときもう一度このスイッチを押すとプリセットスキャン動作が停止します。

- プリセットスキャン動作中は、スイッチのインジケータが点灯し、他のスイッチの操作に優先します。

⑬ アールエフモード、ローカルインジケータ (RF MODE-LOCAL)

FM放送受信中にRFモードスイッチ(RF MODE)を押して“LOCAL”にするとこのインジケータが点灯します。

⑭ アイエフバンド、ナローインジケータ (IF BAND-NARROW)

IF BANDスイッチを押して“NARROW”にするとこのインジケータが点灯します。

⑮ ロックドインジケータ (LOCKED)

放送を受信するとこのインジケータが点灯し、受信周波数がロックされたことを示します。

また、このインジケータは受信した電波の強さに応じて左右三段階に広がって点灯し、全てのインジケータが点灯したときが最良の受信状態です。

⑯ ステレオインジケータ (STEREO)

FMモードスイッチが“STEREO (□)”のときにFMステレオ放送を受信すると、このインジケータが点灯してステレオ放送であることを示します。

FMモードスイッチが“MONO (■)”のときは、ステレオ放送を受信しても点灯しません。

⑰ 受信周波数表示窓

FM放送、AM放送の受信周波数をデジタル表示します。単位はFMがMHz、AMがkHzです。

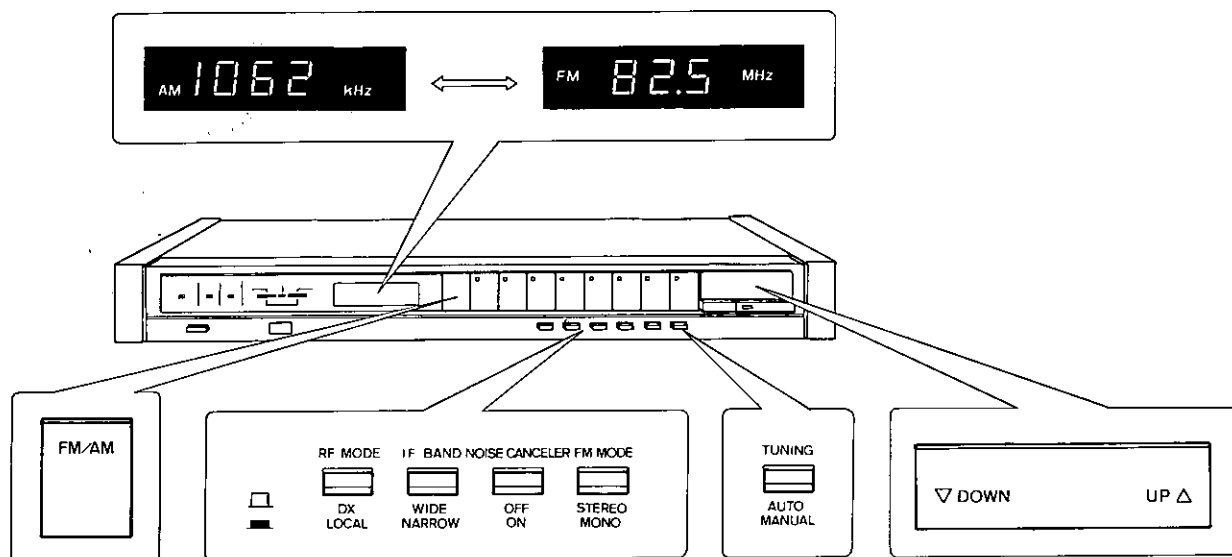
FM放送の受信



AM放送の受信



操作



基本操作

1. パワースイッチを押して電源を入れます。
2. FM/AM切換スイッチで希望する放送バンド (FM, AM) を選びます。
スイッチを押すたびに放送バンドが切り換わり周波数表示窓に“FM”, または“AM”の表示が出ます。
3. チューニングモードスイッチを操作して選局モードを選びます。オート選局のときは“**AUTO** (□)”に、マニュアル選局を行なうときは“**MANUAL** (■)”にセットしてください。
4. チューニングスイッチを押して放送局に同調させます。
UPスイッチを押すと受信周波数が高くなり、DOWNスイッチを押すと低くなります。

オート選曲

チューニングスイッチのUPまたはDOWNを押すと、自動的に選局が始まり放送局に同調すると止まります。受信した放送が希望の放送局でない場合は、再びチューニングスイッチを押して選局します。

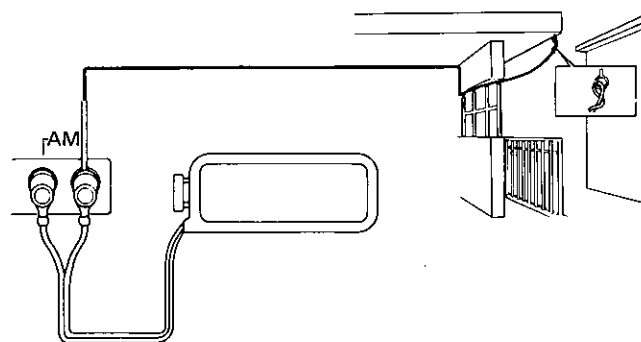
マニュアル選局

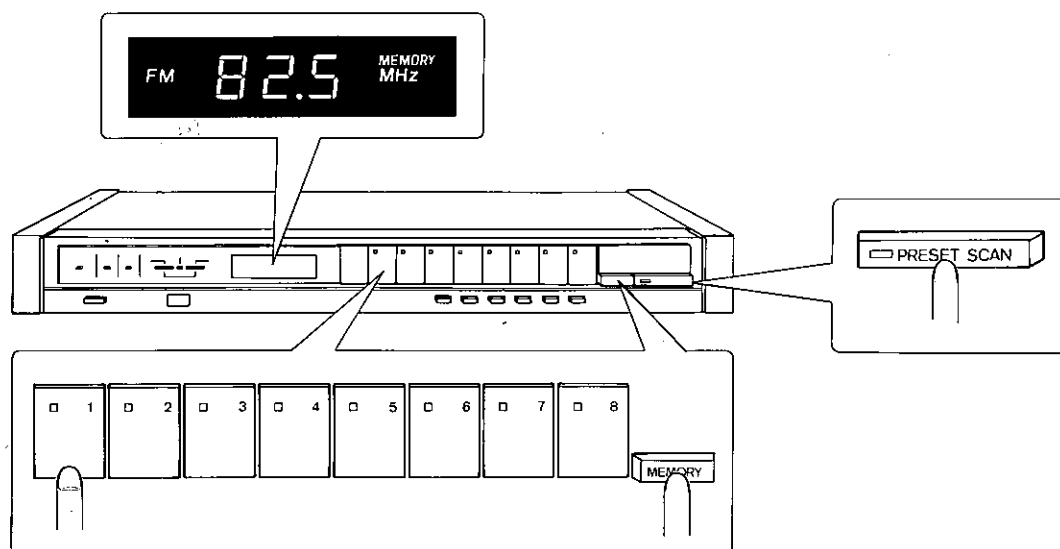
チューニングスイッチのUPまたはDOWNを押し続け、希望の放送局の周波数に近づいたら、1回ずつ押して正確な周波数に合わせます。

5. アンプで音量や音質を調整し、放送をお楽しみください。
- 電波の弱い放送局は、オート選局できない場合があります。そのときはマニュアル選局を行ってください。
 - 電波の弱いFM放送を受信したときに、FMモードスイッチが“**STEREO** (□)”になっているとFMミューティング回路により音が出ないことがあります。そのときは、FMモードスイッチを押して“**MONO** (■)”にしモノラル動作でお聞きください。

より良好な受信のために

- FMステレオ放送を受信中に高域の雑音が気になるときは、ノイズキャンセラースイッチを押して“**ON** (■)”にします。それでもなお雑音が残るときはFMモードスイッチを押して“**MONO** (■)”にしてモノラル動作でお聞きください。
- 隣接した放送局により混信妨害を受けているときは、IFバンドスイッチを押して“**NARROW** (■)”にセットしてみてください。通常は“**WIDE** (□)”でお聞きください。
- 放送局の近くなど電波の強い場所でFM放送を受信すると音がひずむことがあります。この場合RFモードスイッチを押して“**LOCAL** (■)”にセットしてください。通常は“**DX** (□)”でお聞きください。
- AM放送の音が他の放送よりも小さく、雑音が多い場合などは次の対策をお試しください。
 1. ループアンテナを動かして受信状態が最良になるようにします。また、アンテナのコードからスピーカーコードや電源コードは離してください。
 2. ループアンテナが壁に接近していると受信状態が悪くなる場合があります。壁から少しはなしてください。
 3. 設置場所を変えてみる。
 4. 屋外アンテナを設置する。AMアンテナ端子にビニール被覆線を接続し、もう一方を屋外に伸ばす。





プリセットのしかた

よくお聞きになる放送局の周波数をあらかじめプリセットステーションスイッチに記憶させておくと、スイッチを押すだけで希望の放送局を簡単に呼び出すことができます。

1. 基本操作の1～4の手順に従ってプリセットする放送局を受信します。
 2. メモリースイッチを押しながらプリセットステーションスイッチの1つを押すと、インジケーターが点灯し、そのスイッチに受信中の放送局が記憶されます。
 3. 同様の手順でプリセットステーションスイッチの1～8の各スイッチに、FM、AM各1局ずつをプリセットすることができます。
- 一度プリセットしたスイッチに別の放送局をプリセットすると前にプリセットした放送局は消えます。
 - 電源を切る前に聞いていた放送局を記憶するラストステーションメモリー機能により、再び電源を入れると前に聞いていた放送局を自動的に受信します。

プリセットスキャン機能

プリセットステーションスイッチの(1)～(8)にメモリーした放送局をワンタッチで次々に聞ける便利な機能です。

放送の受信中にプリセットスキャンスイッチを押すと、プリセットステーションスイッチのインジケーターが(1)→(8)の順に約4秒間ずつ点灯し、それぞれのスイッチにプリセットされた放送を自動的に聞くことができます。

希望する放送が受信されたらプリセットスキャンスイッチをもう一度押します。スキャン動作が解除され、その放送を受信します。

- FM放送受信中はFMのプリセットスキャンを、AM放送受信中はAMのプリセットスキャンをそれぞれ行ないます。

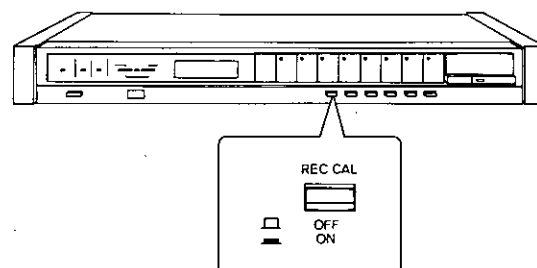
レックキャリブレーション信号について

レックキャリブレーションスイッチ(REC CAL)を押して“ON(■)”にすると440Hzの信号が出力にできます。

この信号は、FM放送の理論上の最大レベルを0dBとしたときの-6dBに相当し、FM放送を録音するときにご利用すると適切な録音レベルの設定ができます。

1. FM/AM切換スイッチを押して“FM”にセットします。
2. レックキャリブレーションスイッチを押して“ON(■)”にします。このときアンプのボリュームを上げすぎないように注意してください。
3. テープデッキを録音待機状態にし、録音レベルコントロールを調整してメーターの指示を設定します。
例：メタルカセットテープ……………0dBに設定。
ノーマルカセットテープ……………-3dBに設定。
4. レックキャリブレーションスイッチを押して“OFF(□)”にします。
5. FM放送を受信し、テープデッキを操作して録音を開始します。

- 実際には理論上の最大レベルより大きなレベルで放送されたり、テープによって最大録音レベルが異なります。より最適な録音レベルを決めるためには、ご使用になるテープやテープデッキに合った設定値をご確認ください。



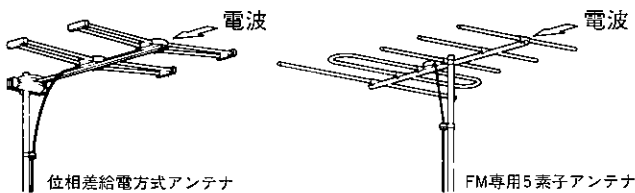
使用上のヒント

FM屋外アンテナと引き込み線

FM屋外アンテナと指向性

雑音の少ない、より音質の良いFM放送を受信するためにはFM専用屋外アンテナを設けてください。建物や山などの障害物の多い地域でのFM受信には特に有効です。

FMアンテナには指向性があり、素子数が多くなるほど指向性が鋭くなり、希望する方向からくる電波だけを受け、他の方向からの電波を受けにくくなるため、マルチパスの影響が減少します。また、素子数が多くなるほど利得(感度)が高くなりますので遠距離受信に有効です。放送局からの距離や受信地の条件などにより、アンテナの種類を決めてください。



引き込み線について

FM屋外アンテナとチューナーを接続する引き込み線には300Ωフィーダー線と75Ω同軸ケーブルがあります。

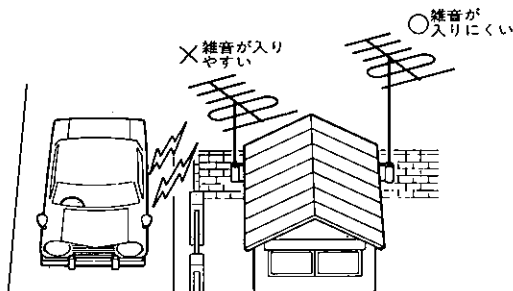
300Ωフィーダー線は簡単に使えますが、外部雑音の影響を受けやすいのが欠点です。

75Ω同軸ケーブルは構造上、外部雑音の影響を受けにくく経年変化も少なく丈夫です。

FM屋外アンテナの設置

FM放送を安定に受信するにはFMアンテナの設置場所を選ぶ必要があります。次の事項を参考にして最適な場所を決めてください。

- 建物の陰にならず、FM放送局からの電波が直接受信できる高い場所が理想です。
- 自動車のイグニッションノイズを避けるために道路から離れた場所に設置してください。また、高圧送電線からも離れた場所を選んでください。
- 金属屋根や他のアンテナからは2m以上離してください。

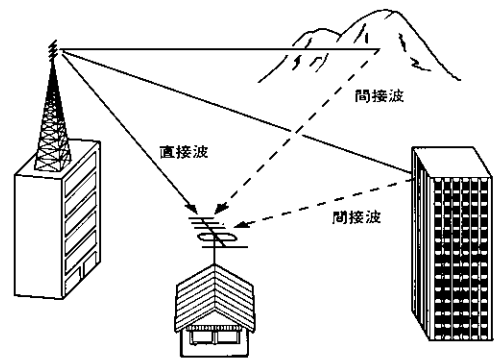


マルチパスについて

FM電波は光のように直進、反射する性質をもっています。そのため、放送局から出た電波はアンテナに直接とどく直接波と山や建物などに反射してからとどく間接波になります。その両方を一緒にアンテナが受信すると、互いが干渉して音がひずんだりセパレーションが悪くなります。

この現象は、テレビの画像が2重、3重になるゴーストと同じでマルチパス(多重反射)と呼ばれています。

このマルチパス現象を少なくするには、指向性の鋭いアンテナを選ぶとともに、アンテナの方向を正しくすることが大切です。



マルチパス現象が最も少ないアンテナの方向を探すにはアンプのトーンコントロールのトレブル(TREBLE)を最大にし、比較的大きな音量で受信音をききながら歪や「ジュルジュル」または「ジュー」という雑音が少なくなる方向にアンテナを向けます。

トラブルと修理依頼

サービスの依頼をする前に

チューナーの故障と思われる症状の中には、使い方や他の装置が原因の場合があります。サービスを依頼する前に、もう一度操作と接続を確かめてください。

症状	原因	処置
FM放送受信時		
● ザーという雑音ができる。	アンテナ線がはずれかけている。	アンテナ線を接続しなおす。
● FMステレオインジケータが点滅する。	アンテナ端子に入る電波が弱い。	FMアンテナを屋外に設置する。
● ガリガリ、バリバリという雑音がときどきでる。	外部から雑音が入る。	FMアンテナの設置場所をかえる。 FMアンテナの引き込み線に同軸ケーブルを使用する。 他の電気製品から、セットや引き込み線をはなす。
● 音がひずむ。	マルチパス歪を起している。	アンテナを正しい方向に向ける。 指向性の良いアンテナに変える。
AM放送受信時		
● 雑音が気になる。	外部から雑音が入る。	テレビや蛍光灯などの電気製品から離す。 電源プラグの差し込みを逆にする。
● ロックドインジケータの点灯が少ない。	チューナーに入る電波が弱い。	ループアンテナを動かして最良の受信点をさがす。 AM用屋外アンテナを設置する。
その他		
● 音が出ない	電源コードがはずれている。 アンプの入力切換がTUNERになっていない。 アンプのボリュームが絞ってある。	電源コードの差し込みを確認する。 アンプの入力切換をTUNERにする。 ボリュームをあげる。

サービスの依頼

確認(対策)しても正常に戻らず、チューナーの故障と考えられる場合は電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げになった販売店または最寄りの当社サービス窓口(別添サービスネットワーク参照)に次の事項をご連絡ください。
(購入して1年以内の場合は、保証書を提示してください。)

- お名前、住所、連絡先電話番号
- 型名…ステレオチューナー：TU-S707X DECADE
- 故障の内容……できるだけ詳しくお知らせください。
- お買い上げ年月日……○年○月○日
- ご自宅までの道順と目標/ご希望訪問日時

規格

FM部

受信周波数	76.0~90.0MHz
実用感度 (IHF)	10.8dBf (0.95 μ V/75 Ω)
50dBクワイエティング感度 (IHF)	
ステレオ	37.0dBf
モノラル	16.2dBf
SN比	
ステレオ	88dB以上 (85dBf)
モノラル	94dB以上 (85dBf)
周波数特性	10~15,000Hz \pm 0.5dB
歪率 (IHF, 80dBf)	
ステレオ (1kHz)	0.015%以下
モノラル (1kHz)	0.0095%以下
キャプチャレシオ (IHF)	0.8dB以下
次隣接局選択度 (IHF) WIDE	26dB以上
NARROW	60dB以上
スプリアスレスポンス比 (IHF)	110dB以上 (83MHz)
イメージレスポンス比 (IHF)	100dB以上 (83MHz)
IFレスポンス比 (IHF)	110dB以上 (83MHz)
AM抑圧比 (IHF)	75dB以上
ステレオセパレーション	
100Hz	50dB以上
1kHz	65dB以上
10kHz	50dB以上
アンテナインピーダンス	75 Ω (不平衡), 300 Ω (平衡)

AM部

受信周波数	530~1,600kHz
実用感度 (IHF, ループアンテナ)	48dB/m (251 μ V/m)
選択度 (\pm 9kHz) WIDE	30dB以上
NARROW	50dB以上
SN比	50dB以上 (85dB/m)
歪率 (30%変調, 80dB/m) WIDE	0.3%以下
NARROW	0.6%以下
イメージレスポンス比 (IHF)	45dB以上 (1,000kHz)
IFレスポンス比 (IHF)	40dB以上 (1,000kHz)

その他

出力電圧

FM100%変調時	0.775V
-----------	--------

電源電圧

	100V
--	------

電源周波数

	50/60Hz
--	---------

定格消費電力

	11W (電気用品取締法)
--	---------------

寸法

	幅466mm \times 高さ57mm \times 奥行306mm
--	---

重量

	4.0kg (本体のみ)
--	--------------

付属品

FM T字型アンテナ	1
F型接栓	1
AM ループアンテナ	1
ピンプラグコード	1

※改良のため、予告なく意匠、仕様の一部を変更することがあります。



山水電気株式会社

本社 東京都杉並区和泉2-14-1(〒168)

Printed in Japan (75M1) <46993200>